

どう進める？

高校の特色化・魅力化

生徒を主語にした学校づくりに向けて

高校教育を取り巻く環境が大きく変化する中、各校には特色化・魅力化が求められています。その転機となったのが、2020年11月に公表された「新しい時代の高等学校教育の在り方ワーキンググループ（審議まとめ）」です。同まとめでは「各高等学校の特色化・魅力化に向けた方策」が高校教育改革の柱の1つとして位置づけられました。そしてそれは、その後に出された中央教育審議会答申（*）などにも引き継がれ、26年2月に公表された「高校教育改革に関する基本方針（グランドデザイン）～2040年に向けた『N-E.X.T.（ネクスト）ハイスクール構想』～」においても、高校教育改革を進める上で重視する視点の中で「各高校の特色化・魅力化」が打ち出されています（図1）。

同構想では、先導的な学びのあり方の構築を改革先導拠点校が担うこととなりますが、その取り組みや成果を協力校や域内の高校に広く共有・普及することにより、地域全体の高校教育の質の向上が期待されます。すなわち、同構想は多くの高校が自校の特色を明確化し、その魅力を高めていく改革とも言えるのではないのでしょうか。

各校が特色化・魅力化を進めていく上で忘れてはいけないのは、それらを「生徒を主語にした」ものにするという視点です。では、そうした視点を踏まえた特色化・魅力化はどのように進めていけばよいのか―本特集では、実践者の話や事例を通じて、その問いのヒントを探りました。

VIEWnext 編集部 統括責任者 柏木 崇

P.4 課題整理

自校の「特色」を明確化し、生徒が感じる「魅力」を高める

全国普通科高等学校長会 事務局長 佐藤 到^{いたる}

長崎県立佐世保南高校 校長 舟越 裕^{ひろし}

P.8 事例1 市部・公立

学校設定教科を学びの土台とし、時代に対応する文理融合型の新しい普通科を創る

熊本県・熊本市立必由館高校^{ひつゆかん}

P.11 事例2 市部・私立

暗黙知として受け継がれてきた全人教育の文化を言語化。

教師と生徒の共通の指針に

大阪府・私立大阪高校

P.14 事例3 郡部・公立

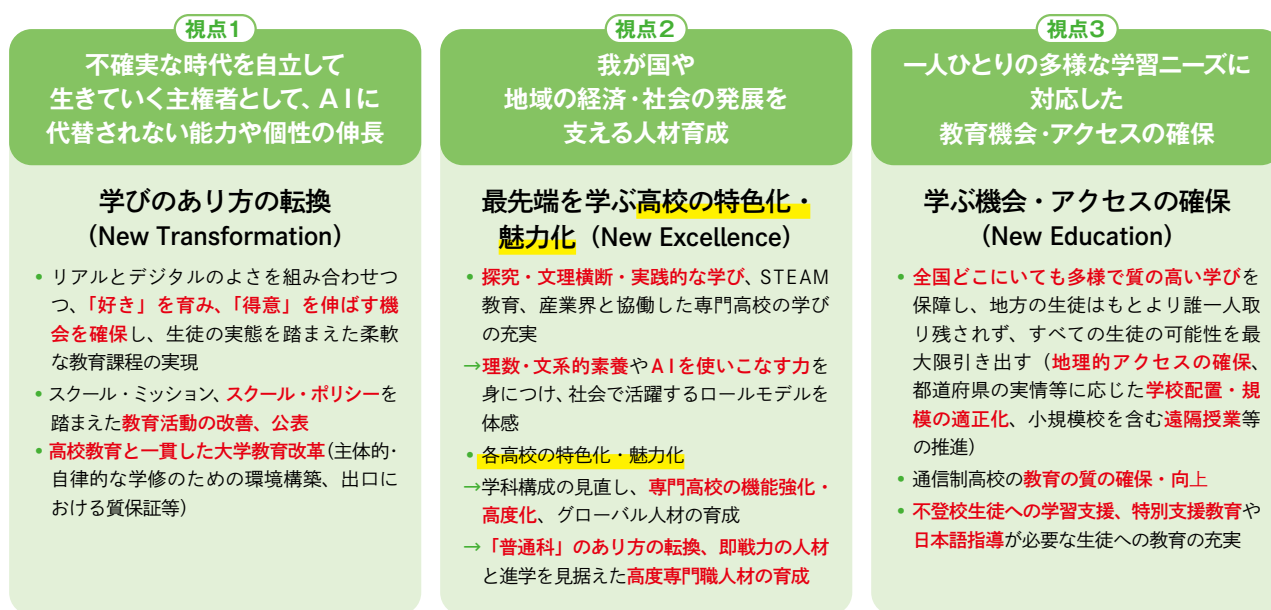
地域資源・課題をテーマとするプロセス重視の探究学習を、町役場と連携して進める

岩手県立葛巻高校^{くづまき}

*『『令和の日本型学校教育』の構築を目指して～全ての子どもたちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～（答申）』（2021年1月）。



図1 高校改革の方向性 ～2040年に向けた高校の姿～

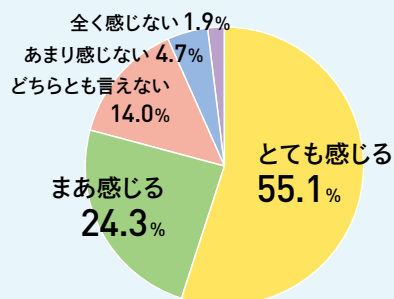


3つの視点を重視しながら、さらなる高校改革を進め、N-E.X.T. ハイスクール構想を実現する。高校から大学・大学院に至るまでの一貫した改革により、強い経済や地域社会の基盤となる人材を育成する。

※文部科学省「高校教育改革に関する基本方針(グランドデザイン) ～2040年に向けた『N-E.X.T.(ネクスト) ハイスクール構想』～【概要】(2026年2月)を基に編集部で作成。下線は編集部による。

図2 教師が感じる「自校の特色化・魅力化」の必要性

Q. ご勤務校において「自校の特色化・魅力化」に取り組む必要性をどの程度感じますか。



※図2・3ともに、『VIEW next』高校版 読者モニターアンケート結果より(アンケートは2026年3月にウェブで実施。有効回答数は107)。

図3 特色化・魅力化の推進にあたっての課題

Q. 自校の特色化・魅力化に取り組む上での課題を教えてください。

- あまりにも取り組み内容が飛躍しすぎていて、どんな生徒像を目標にしているのか分からないところがある。(北海道・私立)
- 特定の分野の資格が取得できるコースを設置したものの、現時点では受験者数の増加にはつながっていない。(千葉県・公立)
- 特色化・魅力化を「自分たちがよいと思うもの」という基準だけで設計してしまうと、社会が求めていることや外の世界の変化との整合性が取れなくなる。(静岡県・私立)
- 取り組みに対する教師の温度差がある。また、取り組みがなかなか学校への評価につながらない。(長崎県・公立)
- 教育目標を教師間に浸透させ、それに基づいた教育活動を実践することが難しい。(愛知県・私立)

文部科学省は、高校改革の方向性を3つの視点で示している(図1)。本誌の読者からも、「この少子化の時代に、必要とされる学校であり続けるために、特色化・魅力化は必須」「生徒が自分の興味・関心に合わせて学べる学校になるために、画一的な教育課程から脱却しなければならない」といった声があり、「自校の特色化・魅力化」の必要性を感じている教師は約8割に上った(図2)。一方、

特色化・魅力化の推進においては、その方向性や教師間の温度差などについての課題があるようだ(図3)。そうした課題が生じるのは、「特色化」と「魅力化」のそれぞれが意味することについて、校内で共通理解が図れていないからではないだろうか。そこで今号では、特色化・魅力化が意味することを整理した上で、各校が特色化・魅力化をどのように進めていけばよいのかについて考えていく。

先生方とともに
考えたい「問い」

特色化・魅力化のそれぞれが意味することは何か。
各校は特色化・魅力化をどのように進めていけばよいのか。